

平成 16 年度 春期

システム監査技術者
午後Ⅱ 問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いて中を見てはいけません。
2. この注意事項は、問題冊子の裏表紙にも続きます。問題冊子を裏返して必ず読んでください。
3. 答案用紙への受験番号などの記入は、試験開始の合図があってから始めてください。
4. 試験時間は、次の表のとおりです。

試験時間	14:30 ～ 16:30 (2 時間)
------	----------------------

途中で退出する場合には、手を挙げて監督員に合図し、答案用紙が回収されてから静かに退出してください。

退出可能時間	15:10 ～ 16:20
--------	---------------

5. 問題は、次の表に従って解答してください。

問題番号	問 1 ～ 問 3
選択方法	1 問選択

6. 問題に関する質問にはお答えできません。文意どおり解釈してください。
7. 問題冊子の余白などは、適宜利用して構いませんが、どのページも切り離さないでください。

注意事項は問題冊子の裏表紙に続きます。
こちら側から裏返して、必ず読んでください。

“あなたが携わったシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用の概要”の記入方法

あなたの所属部門と，あなたが担当した主なシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用業務の概要について記入してください。

①～⑪の質問項目に従って，記入項目の中から該当する番号を○印で囲むとともに，（ ）内にも必要な事項を記入してください。複数ある場合は，該当するものをすべて○印で囲んでください。

問1 取引先などの利害関係者への開示を目的としたシステム監査について

これまでのシステム監査は、企業などの経営者や管理者などに対して助言を行うという目的で実施されることがほとんどであった。しかし、情報システムの社会的な役割が増大する中、システム監査には新たな役割が求められてきている。

経済活動や社会活動の多くにおいて情報システムが利用されている今日では、一企業の情報システムの停止や誤作動が、他の企業や個人などに多大な影響を与える場合がある。このような状況においては、情報システムにかかわる安全性や信頼性について、個々の企業などが自己評価を行うだけでは必ずしも十分とはいえない。独立した第三者が客観的に企業などの情報システムを監査し、取引先などの利害関係者がその結果を利用できる外部監査の仕組みが、今日の社会において必要になっている。

例えば、企業などが情報システムの運用を外部に委託する場合には、委託業務の信頼性や安全性について評価する必要がある。

また、受託企業が多くの子委託元から個別に評価を受けるのも非効率的である。この場合、受託企業が第三者の外部監査を受け、利害関係者に監査報告書を開示することによって、委託元の内部監査人などは、その結果を利用することができる。

一方、利害関係者への開示を目的とした監査においては、助言を目的とした監査とは異なった注意が必要になる。監査報告書を開示する企業は、利害関係者が報告書を適切に利用できるように、監査報告書の開示内容を考慮しなければならない。同時に、監査報告書を利用する利害関係者においても、監査範囲や監査内容を適切に理解した上で、報告書を利用することが求められる。

上記に基づいて、設問ア、イ、ウについてそれぞれ述べよ。

設問ア あなたが関係した組織における業務及び情報システムの概要、並びにその安全性や信頼性が利害関係者に及ぼす影響について、800字以内で述べよ。

設問イ 設問アに関連して、利害関係者が監査報告書を適切に利用できるように、監査報告書の開示内容に盛り込むべき事項を具体的に述べよ。

設問ウ 設問イに関連して、開示された監査報告書を利害関係企業などの内部監査人が利用して、監査を実施する場合の留意点について具体的に述べよ。

問2 情報システムの統合とシステム監査について

事業規模の拡大や事業領域の再編を背景として、様々な形で企業の合併や買収などの企業統合が増えている。これに伴いそれぞれの企業の事業活動を支えてきた情報システムの統合も行われている。

企業統合においては、統合を計画どおり実施して、統合によるメリットを最大限に享受できるようにしなければならない。そのためには、情報システムの統合を円滑に行うことが企業統合の重要な成功要因の一つとなる。一方、情報システムの統合が円滑に進まないことから、企業統合の目的を十分に達成できない状況や、統合後のシステム障害の発生によって事業活動に支障を来す状況も発生している。

情報システムの統合においては、ある企業の情報システムを統合相手となる企業がそのまま利用したり、新たに情報システムを構築したりするケースがある。さらに、既存の情報システムを残して統合相手企業の情報システムと連結させるためのシステム機能を付加したりするケースもあり、対応は様々である。

情報システムの統合を進める際には、情報システムだけではなく、情報システムと密接な関係をもつ業務プロセスや内部統制機能など様々な視点から検討する必要がある。例えば、情報戦略、情報システムの管理・運用、社内手続などが統合相手企業と異なることから生じる問題にも適切に対応しなければならない。

システム監査人には、情報システムの統合に当たって幅広い視点から監査を実施することが求められる。また、統合目的の達成に向けた情報システムの統合が行われているかどうかを監査するためには、統合企業が合同で設置した企業統合委員会などの下にシステム監査チームを設置し、統合後の新体制を踏まえた監査を実施することが必要になる。

上記に基づいて、設問ア、イ、ウについてそれぞれ述べよ。

設問ア あなたが携わった情報システムの統合について、その目的と概要を、800字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べた情報システムの統合の適切性について監査する場合の監査項目を、想定されるリスクと関連付けて具体的に述べよ。

設問ウ 設問イに関連して、企業統合委員会などの下にシステム監査チームが設置される場合、それぞれの企業のシステム監査部門は、どのような点に留意すべきか具体的に述べよ。

問3 IT投資計画の監査について

企業などでは、顧客サービスの向上や企業競争力の強化、競合他社との差別化などを図るために戦略的なIT投資を行ってきている。例えば、インターネット通信販売の実現によって、24時間販売による売上増加や、人件費及び店舗運営などのコスト圧縮だけではなく、インターネット利用者を対象とした新たな販路の拡大が期待される。

また、電子帳簿保存法やIT書面一括法など法制度面での整備も進んできている。取引記録や帳票などの電子的な保存によって、伝票類の印刷や保管などにかかわるコストの圧縮や、受発注から決済までの事務処理の効率の向上などを図ることができる。

一方、IT投資計画の策定においては、システム化によって生じるリスクを低減するための対応策を計画するとともに、システム化以前の業務手続との整合性を保ちつつ、新たな証跡を確保する仕組みの整備が重要となる。例えば、インターネット通信販売システムでは、個人情報の漏えい、決済処理ミスによる二重請求、システム障害によるサービス停止などのリスクを低減するための対応策や、受注データなど取引の成立要件となる電子データの証跡確保、電子的に保存される帳簿類の真実性・見読性の確保などを含めた計画が必要となる。

このような状況を踏まえて、システム監査人は、IT投資による利便性や効率性などの効果だけではなく、関連法制度への準拠性の確保や、新しいビジネスモデルに伴うリスクを低減するための対応策及び必要なコストの検討など、総合的にIT投資計画が策定されているかどうかを確かめる必要がある。

上記に基づいて、設問ア、イ、ウについてそれぞれ述べよ。

設問ア あなたが携わった業務の概要と、その業務にかかわるIT投資の目的及び期待される効果について、経営戦略と関連付けて800字以内で述べよ。

設問イ 設問アで述べたIT投資において、リスクを低減するための対応策や法制度面での準拠性確保に関して、計画段階で考慮すべき点を具体的に述べよ。

設問ウ 設問ア及び設問イで述べた内容を踏まえて、IT投資計画の適切性を監査する場合の監査ポイントを具体的に述べよ。

〔 メ モ 用 紙 〕

〔 メ モ 用 紙 〕

8. 答案用紙の記入に当たっては、次の指示に従ってください。
- (1) 受験番号欄に、**受験番号**を記入してください。正しく記入されていない場合は、採点されません。
 - (2) 生年月日欄に、受験票に印字されているとおりの**生年月日**を記入してください。正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。
 - (3) 選択した問題については、選択欄の問題番号を○印で囲んでください。○印がない場合は、採点の対象になりません。2 問以上○印で囲んだ場合は、はじめの 1 問について採点します。
9. 解答に当たっては、次の指示に従ってください。指示に従わない場合は、評価を下げる場合があります。
- (1) **問題文の趣旨に沿って解答してください。**
 - (2) 解答欄は、“あなたが携わったシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用の概要”と“本文”に分かれています。“あなたが携わったシステム監査，システム利用又はシステム開発・運用の概要”は、2 ページの記入方法に従い、全項目について記入してください。
 - (3) “本文”について、
 - ・設問アは、800 字以内で記述してください。
 - ・設問イ，ウは、併せて **1,600 字以上** 3,200 字以内で記述してください。
 - (4) 解答は、丁寧な字ではっきりと書いてください。
10. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ることができます。
11. 答案用紙は、白紙であっても提出してください。
12. 試験時間中にトイレへ行きたくなったり、気分が悪くなったりした場合は、手を挙げて監督員に合図してください。

試験問題に記載されている会社名又は製品名は、それぞれ各社の商標又は登録商標です。

なお、試験問題では、® 及び ™ を明記していません。